

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2010年度 NO.3

目次

- ・東日本大震災のお見舞
- ・第12回大会準備報告
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・十周年記念事業WG報告
- ・企画研究WG報告
- ・支部活動報告（関西支部、九州支部、北海道支部、関東支部）
- ・平成23年度高良記念研究助成募集について
- ・選挙管理委員会からのお知らせ
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報

東日本大震災のお見舞

このたびの宮城県三陸沖を震源とした「東北地方太平洋沖地震」におきまして、多くの犠牲となられた方々に謹んで追悼の意を捧げるとともに、被害を受けられた会員の皆様、関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

今回、地震と津波による直接的な被害だけでなく、そこから派生し、いまだ収束を見ない福島原発事故なども加わり、日本中がいろいろな面で影響を受ける、深刻な事態となっています。自然災害としての地震の規模も未曾有のものでしたが、事態収束や復興に向けてのさまざまな混乱は、われわれの社会のつくり方のどこか重大な欠陥を明らかにしているのではないかと思います。地方の負担で中央に資源を集中し、それがトータルな社会発展をもたらすという日本の近代化の原理が何をもたらしているのか、そうした根源的な問いの問い直しも必要なのかもしれない。もちろん、グローバルな分業・機能分担と相互依存的な世界があり、ローカルなモノロー主義が成立する余地はないのですが。

災後の日本復興に向けて、本学会では、何よりも制度的な配慮や会員の相互交流などを通して被災関係者への個別的な支援を図るとともに、インターンシップを通して地域^{コミュニティ}を愛する人材を育てる地域と教育のあり方について、より本質的な研究を進めることを通して、学術団体としての役割を果たして参りたいと考えます。ぜひ会員諸氏のそれぞれの立場での探究と研究交流をお願い申し上げます。

ここに、あらためて学会および会員としての役割を確認し、一日も早い日本の復旧、復興を祈念したいと存じます。

(会長 吉本 圭一)

第12回大会準備報告

来る第12回大会は、2011年9月17日(土)・18日(日)の2日間、全プログラムを鳥取大学(鳥取キャンパス)にて開催いたします。

今大会のテーマは「インターンシップの『成果』を考える」といたしました。インターンシップにか

かわる各主体にとって、実践の成果は最も関心を寄せるところであります。また近年はインターンシップを取り巻く各ステークホルダーからも、成果の照会や成果に関する説明責任を求める声が高まっています。学術上も実践上も、「成果」はこれまで以上にホット・イシューとなっています。ところが「成果」をめぐる議論は、重要論点であるがゆえに時として錯綜や拡散に陥りやすくもありました。そこで「成果」とは何かについて、立場の異なるアクターによる横断的交流を通じていま一度皆様にお考えいただける舞台を、今大会がご用意できればと思っております。

大会プログラムは一日目午後に基調講演、シンポジウム、高良記念研究助成報告などと続き、夕刻からは郷土色を織り込んだ懇親会を計画しております。自由研究発表は二日目午前に設定いたしました。会員の皆様にはどうかふるってご発表くださいますようお願い申し上げます。なお大会に関する情報は、詳細が決まり次第、開催校のHPに順次掲載してまいります(<https://sites.google.com/site/internship2011jsi/>)。

ところで前回のニュースレターでもご案内しましたように、今大会は翌日の祝日を含む三連休期間においていただくかたちとなるため、皆様の交通手段と宿泊先の確保が例年以上に大会実行委員会の重要な課題と考えております。そこで今大会では旅行会社と提携して、東京一鳥取のANAと市内主要ホテルの予約申し込み窓口を開設いたします。詳しくは前掲の開催校HPとリンクした専用HPをご覧ください。とはいえ確保する座席と部屋の数にも限りがございますので、どうかいつもより早めのご予約をお願いいたします。

大会実行委員会を挙げて皆様のお越しを心よりお待ちしております。

(第12回大会実行委員長 長尾 博暢・鳥取大学)

理事会報告

2010年度第4回理事会(12/11@関西学院大学)
[報告事項]

(1)前回の理事会および総会の議事録案について
原案どおり了承された。

(2) 第 12 回大会について

長尾大会実行委員長より、大会日程（2011 年 9 月 17 日（土）～18 日（日））などが報告された。

(3) ニュースレターの発行等について

江藤広報副委員長より、ニュースレター第 2 号の発行、ウェブサイト移行の報告があった。

(4) 高良記念研究助成について

太田高良記念研究助成審査委員長より、平成 21 年度の助成対象者から結果報告書が提出されたこと、委員会での審査した結果、問題なしとの報告があった。

(5) 十周年記念誌の発行について

田中十周年記念事業 WG 委員長より、10 周年記念誌を年度末完成の予定で進めていると報告があった

(6) 各支部活動について

加藤関西支部長より、2010 年 12 月 10 日（金）の支部研究会について報告があった。また、吉本九州支部長や亀野北海道支部長から、2011 年以降に予定される研究会の日程が告知された。また、太田関東支部設立準備委員長より、関東支部設立総会および記念フォーラムの開催が告知された。

(7) その他

亀野事務局長より、会費未納者に対する督促の実施、特定非営利活動法人日本インターンシップ推進協会からの後援名義使用申請について報告があった。

[審議事項]

(1) 入会申請者について

入会（2 件）について承認された。

(2) 理事選挙及び会長選挙について

亀野事務局長より、理事選挙規程の見直し、会長選挙規程や選挙管理委員会規程の制定、選挙スケジュールについての原案が説明された。また、吉本会長より、選挙管理委員会の委員案（横山皓一理事（委員長）、伊藤文男理事、田崎悦子会員の 3 名）が提案された。いずれも審議の結果、承認された。

2010 年度書面理事会（2011 年 3 月）

東日本大震災の影響により、3/13 に開催予定であった第 5 回理事会を急遽中止し、書面理事会及び常任理事会を開催することとなった。書面により 27 名の理事のうち 20 名から回答があり、以下の議題がすべて了承された。

[報告事項]

(1) 前回の理事会の議事録案について

原案どおり了承された。

[審議事項]

(1) 入退会の申請者について

入会 6 件及び退会 5 件の申請について、すべて承認された。

(2) 高良記念研究助成審査委員会の委員交代について

太田委員が退任し、新たに牛山会員が就任することが原案どおり了承された。

(3) 学会サーバーの移設について

国立情報学研究所の学協会情報発信サービスが終了することから、2011 年 4 月に学会サーバーを移設することが了承された。

2010 年度第 1 回常任理事会（4/3@北海道大学東京オフィス）

(1) 書面理事会の結果について

亀野事務局長より書面理事会の結果が報告された。

(2) 第 11 回大会について

亀野事務局長より、第 11 回大会の決算報告がなされ、了承された。

(3) 第 12 回大会について

長尾大会実行委員長より大会テーマ案、プログラム案等の説明があり、了承された。

(4) 2011・2012 年度理事選挙・会長選挙について

横山皓一選挙管理委員長より 4 月中旬に会員宛に投票用紙を配布し、5 月 6 日締切で理事選挙を実施するなどの実施方針案が示され、了承された。

(5) 各支部報告

太田関東支部長より 3/11 に設立総会を開催したこと、また、各支部長から研究会の開催状況及び開催予定についての報告があった。

（事務局）

年報編集委員会報告

学協会誌編集状況について

年報編集委員会では、現在、各委員や第 11 回大会実行委員会のご協力を得て、平成 23 年度発行の学協会誌の編集作業を進めております。今年は 5 篇の投稿を頂きました。東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）の影響もあって、投稿論文の査読が遅れておりますが、近く各投稿者に対して修正方をお願いする予定です。「論文」、「研究ノート」、「報告」などに分類し、夏には印刷に回す予定です。

（年報編集委員会 委員長 安孫子 勇一）

広報委員会報告

Web サーバーの変更について

国立情報学研究所「学協会情報発信サービスにおけるホームページ構築・提供支援」が 2011 年度末で終了されることに伴い、代替サーバーの選定作業を進めて参りました。広報委員会では、サーバーの安定性・信頼性や年間コスト、サポート体制など様々な観点から検討した結果、NTT スマートコネクト・スマイルサーバを移行先として提案し、3 月の理事会において承認されました。

現在、2011 年 8 月の新サーバーでのサービス開始、10 月の旧サーバー上のサイト閉鎖を目指して作業を進めております。会員の皆様には、新サイト関連

情報を新・旧の Web サイト、ニュースレターなどを通して、適宜最新情報をお伝えいたします。

(広報委員会 委員長 石田 宏之)

十周年記念事業WG報告

十周年記念事業WGでは、10年史の編纂をほぼ終え、目下校正作業に入っております。「日本インターンシップ学会～10年の記録」と題し、『インターンシップ研究年報』別冊として6月の配布を予定しています。内容としては、①制度としてのインターンシップが導入される時代背景、②学会組織の変遷、③学会大会・研究会の動向、④特色あるインターンシップの取組み事例などから構成されており、学術資料としても活用できるものとして期待されます。

(十周年記念事業WG 委員長 田中 宣秀)

企画研究WG報告

学会員による共同研究の促進・支援、北海道からの続報

この企画研究ワーキンググループは、学会員のさまざまな学術的、実践的な研究活動、特に共同での研究活動を促進し、また学会として必要とされる研究活動を企画していくことを目的として、2009年10月から始動しました。2010年度には、亀野淳会員を研究代表者とする科研「インターンシップなど産学連携教育を通じた学校から社会への移行システムに関する研究」がスタートしています。

この度、下記のとおり、椿明美会員（札幌国際大学短期大学部）を研究代表者とする新規の科研が採択となりました。この研究には、グループメンバーを中心に椿明美、亀野淳、沢田隆、和田佳子、江藤智佐子、小林純、稲永由紀、吉本圭一（順不同）の各会員が参加しています。本ワーキンググループとしても、この研究を積極的に支援し、学会での研究発表等をいただくようお願いしていきたいと考えております。また、現在は北海道支部からの2つの企画が進行中ですが、今後、他の地域支部からも、より多くの共同研究が企画・推進されるよう検討を進めていきたいと存じます。会員の皆様の、学会の研究推進にかかるいろいろなアイデア等をお寄せください。

以下は、研究代表者からのメッセージです、どうぞよろしく願いいたします。

(企画研究WG 委員長 吉本 圭一)

平成 23-25 年度 科学研究費補助金・基盤研究(B)
「大学から職業への移行を促すインターンシップを軸としたキャリア教育研究」

本研究は、インターンシップ体験と長期的視野にたったキャリア形成との関連性を明らかにすることを目的として、大学・短期大学等で実施しているインターンシップと教育課程との関連を調査し、さらにインターンシップの体験・非体験が、卒業後のキャリアに何らかの関連があるのかを明らかにします。具体的な研究方法は、教育機関および卒業生対象のアンケート調査とインタビューを実施するとともに、海外における教育課程とインターンシップの関連性を実地調査し、日本のキャリア教育との差異を明らかにする予定です。研究成果は本学会のさまざまな媒体を通じて発表・公開を行います。

(研究代表者 椿 明美)

支部活動報告

関西支部

関西支部設立5周年記念フォーラムを開催

2005年に設立された関西支部は、このたび設立5周年を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様のご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

昨年12月10日、第7回研究会を設立5周年記念フォーラムとして開催しました。会場となった大阪企業家ミュージアム会議室は、立ち見が出るほどの盛会でした。「秀逸なインターンシップに共通するもの」という総合タイトルの下、坂上義明氏（大阪商工会議所人材開発部長）による基調講演に続き、熊谷悟（大阪企業家ミュージアム主任）による「商工会議所が手掛ける半年間に及ぶ課題解決型長期インターンシップ」、上田久雄氏（有限会社上田代表取締役社長）とインターンシップ体験学生による「即戦力型研修で教育効果を発揮する長期インターンシップ」、難波祐美氏（南大阪コンソーシアム）と参加学生による「NPO法人と大学の連合による中小企業支援長期インターンシップ」、ラウパッハ・ヨーク氏（NEC SCHOTT コンポーネンツ株式会社代表取締役社長）による「理系大学院生の課題解決型の高度人材育成長期インターンシップ」の4取組が紹介されました。いずれもインターンシップを構成する受入者（企業等）、学生そして大学の三者が納得し充足感を得られる取組み（支部としての秀逸の定義）であり、①長期であること、②入念なプログラミングがなされていること、③優れた仲介者が大きな役割を演じていること、の共通項3点が抽出されました。黎明期から普及期を迎えたインターンシップですが、

さらなる高みを目指すために何が必要か、今回のフォーラムでその一端が明らかにされたと思われます。設立10周年を目指すにあたり関西支部としては、今回のフォーラムで得た知見を指針として参りたいと存じます。

(関西支部 支部長 加藤 敏明)

九州支部

九州支部平成22年度第2回研究会を開催

九州支部では、去る2011年3月5日(土)、九州大学箱崎キャンパスにおいて2010年度第2回研究会を開催しました。テーマは『海外インターンシップの可能性』。はじめに、ニュージーランドでの語学研修やインターンシップをビジネス展開しているジーナ・ウィットル氏(株式会社Gina & Partners 代表取締役)から「海外インターンシップの現状と課題」というテーマで発表いただきました。実際の体験者のお話から、海外インターンシップが人間的な成長につながることをリアルに感じる事ができました。次に、渡邊和明会員(専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス)から「専門学校における海外インターンシップ」というテーマで福岡市の専門学校における海外インターンシップの事例紹介をいただきました。最後に、米澤彰純氏(名古屋大学大学院准教授)に「大卒者の海外経験と能力・キャリア形成」というテーマでご講演をいただきました。留学経験やインターンシップ経験と現在の仕事との結びつきが仕事に対する満足度に影響を与えるといった調査結果をご発表いただきました。海外経験といわゆる「人間力」との関係を取り上げた研究が少ない中、示唆に富むお話をいただきました。

九州支部では、今後も年間2回のペースで研究会を開催していきたいと考えています。

(九州支部 副支部長 真鍋 和博)

北海道支部

北海道支部活動報告と研究会のお知らせ

昨年3月に設立された北海道支部ですが、研究会を中心に活動を進めております。

[第2回研究会(実施報告)]

2011年2月26日(土)に北海道大学において、北海道支部第2回研究会を開催いたしました。道内会員を中心に、非会員を含め約20名の参加がありました。

テーマを『インターンシップを経験した社会人からインターンシップの効果を探る』として、学生時代にインターンシップを経験した後に就業した若手社会人4人をゲストに招き、インターンシップ参加による就業への効果や意志決定などの話題を中心に

討論を進めました。

ゲストの方々にはインターンシップを経験したことが就業先の希望に大きく影響した事例や、事前に就業を体験することで社会人への移行がスムーズに進んだという感想を述べられていました。座談会形式で進めたこともあり、和気藹々とした雰囲気の中、時間が短く感じられる研究会となりました。

[第3回研究会(開催のお知らせ)]

来る2011年6月26日(日)に、札幌エルプラザにおいて、北海道支部3回目となる研究会を開催いたします。

今回はインターンシップと企業の関わり、特に中小企業と大学をつなぐインターンシップを中心テーマとして、議論を進めます。基調講演として、北海道中小企業家同友会の専務理事である細川修氏を招き、中小企業の人材育成とインターンシップの繋がりについてご講演いただきます。また学生の長期インターンシップや企業を支援する団体「ピオネイロ」代表の浜中裕之氏の発表や、情報交換会なども予定しております。多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております。詳細につきましては、学会Webサイト、メールなどでお知らせいたします。

(北海道支部 事務局 小林 純)

関東支部

関東支部の設立および活動報告について

[関東支部の設立]

2011年3月12日(土)に、工学院大学新宿キャンパスにおいて関東支部設立総会を開催し、関東支部を正式に設立いたしました。関西支部、九州支部、北海道支部に続く4つ目の支部です。同設立総会では以下の各会員を役員として選出しました。

支部長に太田和男(帝京平成大学)、副支部長に那須幸雄(文教大学)、藤原邦彦(山梨学院大学)、高橋宏(東京国際大学)横山修一(工学院大学)、折戸晴雄(玉川大学)、顧問に天谷正(中央大学企業研究所)、小川浩平(東京工業大学)、田中宣秀(電気通信大学)、館昭(桜美林大学)の各会員です。

関東支部としては、今後、年3回程度の研究会などを開催する予定です。

[関東支部設立準備第2回研究会を開催]

2010年8月28日に、「職業教育とインターンシップ」をテーマに掲げ、目白大学新宿キャンパスで開催いたしました。全国から学会員、非学会員を含め約70名の参加者がありました。

まず、安彦忠彦氏(早稲田大学教授)より「職業教育・キャリア教育の在り方」と題する基調講演をいただきました。続いて、①シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル人事総務部のシニアHRオフィサー小林隆江氏より「ホテル・インターンシップ

の課題と展望」、②聖徳大学の島田薫会員より「インターンシップの実績とシステムのあり方」、③職業能力開発総合大学の奥田美都子会員より「転職支援・就職支援の実態とインターンシップ」、④工学院大学の横山修一会員より「キャリアガイダンスとインターンシップ」と題して、それぞれの取り組みに対する報告がありました。研究会後には情報交換会を行い、非会員、会員は活発に交流しました。

(関東支部 支部長 太田 和男)

平成 23 年度高良記念研究助成募集について

「高良記念研究助成」制度は、高良和武名誉会長から学会へご寄付頂いた基金をもとに、平成 19 年度よりインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進を図ることを目的として、優れた研究課題へ研究助成を行うものです。また、榎本淳子会員からも寄贈いただいておりますことを申し添えます。

そこで、平成 23 年度の研究助成の募集を行いますので、是非ご応募頂けますようお願いいたします。なお、募集要項、申請書式など、申請に係る書類は本ニュースレターに同封しております。学会ホームページでも入手可能です。

審査は申込締切後、採否を審査、8 月の理事会で決定し、研究助成対象者は大会の総会席上にて発表されます。助成期間は 1 年、研究成果は次年度の大会にて発表いただき、さらに研究年報に助成研究として掲載されます。

国内外における多様な視点からのインターンシップ研究、その実践活動の展開に関する研究など幅広い研究についての応募をお待ちしております。

※申込締切：2011 年 6 月 17 日 (金) 必着

(高良記念研究助成審査委員会)

選挙管理委員会からのお知らせ

理事選挙、会長選挙の実施について

2011・2012 年度の学会理事、会長選挙の実施にあたり、理事会より選挙管理委員として横山皓一会員、伊藤文雄会員、田崎悦子会員の各委員が委嘱され、選挙管理委員長に横山皓一会員が選任されました。この選挙管理委員会の下で、理事選挙、会長選挙を実施します。

(1) 理事選挙について

- ・理事選挙において選挙権を有する者は、2011 年 3 月末日時点で 2010 年度会費を納入している個人会員及び法人・団体会員です。
- ・投票用紙は 2011 年 4 月 14 日付で発送、投票締切日は 5 月 6 日 (消印有効) でした。
- ・新理事候補 20 名は 5 月 25 日頃までには決定の見

通しです。

(2) 会長選挙について

新理事候補 20 名が決定した後、新理事候補の投票により新会長候補を選出します。

- ・選挙方法は理事選挙と同じです。
- ・投票用紙等発送は 2011 年 6 月 6 日頃、投票締め切りは 6 月 18 日頃の予定です。
- ・新会長候補は 6 月 25 日迄には決定の予定です。

なお、選挙管理委員会では 6 月 26 日理事会 (札幌) に新理事候補、新会長候補、選挙経緯等について報告後、役割を終えたいと思っております。選挙は規定に則り厳正に実施するとともに、ホームページ上で極力情報公開に努める所存です。

(選挙管理委員会 委員長 横山 皓一)

事務局からのお知らせ

「会員情報調査票」提出のお願い

本年 2 月に「会員名簿」をお送りいたしました、それ以降に新天地で活動を開始された会員も多いことと存じます。同封の「会員情報調査票」の確認をお願いいたします。所属・住所等が変わりましたら、速やかに事務局迄お届け下さい。連絡先が不明になりますと、年報やニュースレター、大会案内等、会員サービスが受けられなくなりますのでご注意ください。

また、皆様から返信された調査票をもとに、会員名簿を作成しております。名簿掲載事項の可否についても毎年必ず連絡願います。

会費納入のお願い

本学会は 2011 年度より事業年度及び会計年度が 7 月から翌年 6 月までに変更になります。ついては、2011 年度の年会費の納入をお願いいたします。詳細につきましては、本ニュースレターに同封しております「会費納入のお願い」などをご参照下さい。

会費納入先

【郵便振替】

口座番号 02750-1-108419

加入者名 日本インターンシップ学会

【ゆうちょ銀行】

店番 279 (当座) 108419

【銀行振込】

北洋銀行 北七条支店 (普通) 3927955

受取人名 日本インターンシップ学会

(電信振込の場合は、「ニホンインターンシップガッカイ」と入力下さい。)

日本インターンシップ学会 News Letter 2010 No.3

平成 23 年 5 月 10 日発行

発行 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 石田 宏之

印刷 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 亀野 淳

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学 高等教育推進機構 高等教育研究部 キャリア教育支援室内

E-mail jsi-sec@high.hokudai.ac.jp 電話&FAX 011-706-5147

Website <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsi/>